

ドネペジル塩酸塩OD錠「ニプロ」を 服用される患者さんのご家族へ

【監修】医薬情報研究所／株式会社エス・アイ・シー
公園前薬局(東京都)薬剤師 堀 美智子 先生



認知症ってどんな病気？

認知症とは、「脳や体の疾病が原因で、記憶や判断力などが退行・低下し、日常生活や社会生活に支障をきたす状態」をいいます。

認知症の症状は中心となる「中核症状」と、それに伴って起こる「周辺症状」に分けられます。

中核症状(認知症患者に必ずみられる症状)

- 過去の出来事や体験そのものを忘れてしまい、ヒントを与えられても思い出すことができない
- 日時や場所が正しく認識できない
など



周辺症状(人によって差がみられる症状)

- 怒りっぽくなる、イライラする
- 意欲がなくなる、物事への関心が薄くなる
など



これらの症状は日常生活に支障をきたし、生活の質(QOL)を低下させる原因となります。このような症状がみられても、「歳のせいだからしょうがない」と見過ごされがちですが、早期から適切な治療をおこなう必要があります。

このお薬の効果について

現在ではまだ認知症を完治させる方法はありません。
そのため、認知症における治療の目標は患者さんの
生活の質(QOL)をできるだけ長く維持することです。

- このお薬は病気そのものを完治させる効果はありませんが、アルツハイマー型認知症の中核症状(もの忘れや判断力の低下など)の進行を遅らせる効果が期待できます。イライラ、怒りっぽくなるといったような周辺症状には、必要に応じて他の薬が使用されることがあります。
- 早期から服用を開始するほど治療効果が高いことがわかっています。
- 食生活、生活習慣の見直し、脳を活性化させるようなリハビリテーションなども併せておこないましょう。



服用について

用法・用量等、お薬の服用については主治医の指示に従ってください。

OD錠
(原寸)



OD錠は、口の中で溶けやすく、水なしでも服用することができます。

- ① 1日1回飲ませてください。
- ② 1日3mgから開始し、1～2週間後に1日5mgに増量します。
(お薬の量を少量から始めるのは、お薬に体を徐々に慣れさせていくためです。)
病気の症状が進行*したら1日10mgに増量します。
(アルツハイマー型認知症は進行性の病気です。「進んできたかな…」と気が付かれたときには、主治医に相談してください。)
*高度アルツハイマー型認知症に症状が進行した場合
- ③ 飲み忘れても2日分を一度に飲ませないでください。
- ④ お薬の服用を、患者さんやご家族の判断で中止しないでください。
- ⑤ 服用は、ご家族の確認のもとでおこなうようにしましょう。



●服薬チェックシールを使いましょう

服薬チェックシールは、薬の飲み忘れがないかをチェックするためのものです。
服用後、1枚ずつカレンダーに貼ってください。



副作用について

このような症状がみられる場合があります。

- 軽い吐き気、
便が軟らかくなる、
尿失禁



- 活発になりすぎる、
イライラする、
落ち着きがなくなる



注意したいPOINT

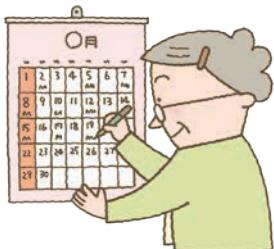
服用を始めるときや、お薬の量が増えるときは
特に注意してください。
これらの症状は、お薬に体が慣れると徐々に消えていく
場合がほとんどです。

※気になる症状がみられる、いつもと違う状態が続く場合は、
医師や薬剤師に相談してください。

ご家族の心がけ

日常生活でのPOINT

●もの忘れ対策



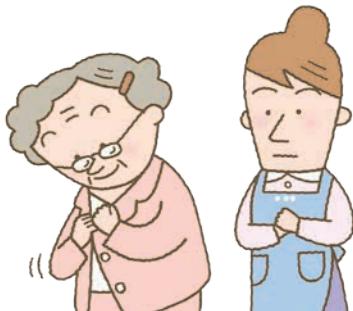
患者さんが予定や約束を書き込めるように、
目につく場所にカレンダーを
掲示しましょう。

よく使うものは置き場所を
決めて、張り紙などで
わかりやすくしましょう。



●自分でできることはやってもらう

自立した生活は心身の機能を
保つうえで大切です。
すぐに手助けせず、
見守ることを心がけましょう。



●バランスの良い食事と適度な運動

魚や野菜中心の献立を心がけ、忘れがちな
水分もしっかりとるようにしましょう。
また、体力の低下を防ぐためにも散歩などの
適度な運動も大切です。



●安心して暮らせる生活環境づくり

転倒やけがを防ぐためにも、できるだけ家の中の
段差をなくし、手すりを設置しましょう。
また、火の扱いには十分注意し、危険なものは
患者さんの側に置かないようにしましょう。



●受け止め方、コミュニケーションの取り方

家に帰ります！



もし「家に帰ります！」と言われたら…。

突拍子もない言動に思われますが、実は中核症状による不安や混乱が原因で引き起こされています。ご家族の方はこのような患者さんの気持ちを理解したうえで受け止め、対応してあげることが大切です。

患者さんの心理状態

- なぜ私は今ここにいるのだろう…。
- こんな知らない場所ではなく、知っている場所(家)に戻りたい。
- 今、違う場所で人を待たせているかもしれない。



対応のヒント

- 「それでは一緒に帰りましょう。」➡近くを一周してから戻る。
- 「息子さんが迎えに来ると連絡がありましたから、お茶を飲みながら待ちましょうか。」
➡他のことに興味を向けさせる。
- 「どうぞ気をつけてお帰りください。」
➡一旦受け入れ、後について行き途中で引き返す。



ご家族の方へ

「一人で抱え込まないで」

介護する人が疲れないように、様々なサポートシステムを利用することが大切です。
福祉介護サービスについても早い時期から調べておきましょう。





医療機関・薬局名